Ramsar Center Japan
c/o Maple Tours Travel Agency
Room101, 2-3-1 Meguro, Meguro-ku,
Tokyo 153-0063, JAPAN
Tel & Fax: +81-3-3792-5513

ラムサールセンター(湿地と人間研究会)
〒153-0063 東京都目黒区目黒2-3-1-101
(メープル・ツアーズ内)
Tel & Fax: 03-3792-5513
E-mail: ramsarcj.nakamura@nifty.com
http://rcj.o.oo7.jp/

＜ラムサール通信＞
2022年８月13日発行　第212号

●第32期　ラムサールセンター総会　開催報告●

ラムサールセンター（RCJ）の第32期総会を７月３日（日）の午後に開催しました。今年度は３年ぶりのリアル開催（会場：新蒲田複合施設）とオンラインを併用したハイブリッド形式で実施しました。RCJ会員は18名（オンライン11名(磯崎さん、大原さん、大村さん、小山さん、田辺さん、中村秀次さん、中村玲子さん、名執さん、フローレスさん、藤倉さん、武者さん)、現地会場８名（岩崎さん、尾崎さん、亀山さん、北本さん、佐藤奈津子さん、鈴木詩衣菜さん、林さん、藤岡さん)）が参加しました。

総会は､会長の岩崎さんより｢コロナ禍の影響が薄れ少しずつ対面での活動実施を行えるようになった。今回の総会のようなコミュニケーションの場を大事にしつつ、湿地保全に向け今後ラムサールセンターとしてどのような活動ができるかを今一度考え、会員の皆様とともに活動を進めたい｣という旨の挨拶が行われた後、議事進行役として事務局の尾崎さんを指名し進められました。まず2021年度の活動について事務局長の北本さんから、コロナ禍でさまざまな困難があったなか、国内活動、海外活動ともにできるだけの活動を継続してきたことが報告され、承認されました。続いて、2021年度の決算について、監事の藤岡さんから適正だったとの報告があり、承認されました。

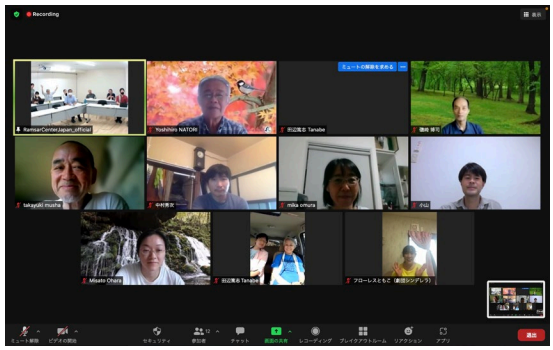
次に2022年度の活動計画について、北本さんと各プロジェクト担当者から説明がありました。2022年度の活動は、第11期中期計画（目標年次2024年度）に基づき、目標１（湿地の現状や湿地のワイズユースに向けた情報をとりまとめ、日本および国際社会に情報発信するとともに、グッドプラクティスの発掘をおこなう)、目標２（湿地保全に関わる人材の育成を図る)、目標３（ベンガル湾諸国の湿地環境と優良事例の情報を発信し、草の根レベルからベンガル湾の湿地保全イニシャチブの主流化に貢献する)、目標４（組織体制を見直し、役務･財政面における健全な組織運営を整備する）を４つの目標の達成を目指して、国内外におけるラムサールセンターのネットワーク発展・拡大に努め、国内活動、海外活動を進めることが説明され、それを実現するための収支計画が示されました。

2022年度活動計画および収支計画について、以下の意見が挙がりました。

・2022年度の予算案で、新型コロナウイルスの影響も少しずつ薄れ、国内外の視察や訪問を行う機会も増えることとなるので、旅費交通費を増額している点に関しては支持する・各地の湿地訪問は、ぜひとも進めるべき。予算を確保し、訪問・視察を組織として実施したほうがいい
・各会計品目について、品目ごとの詳細を記載したほうがいい。(品目の詳細、プロジェクトごとでの品目、等）上記意見を踏まえて、2022年度活動計画、収支計画は承認されました。総会中に挙がった意見に関しては、今年度をかけて対応を進めたいと考えています。

組織体制については、副会長の小山文大さんが辞任し、鈴木詩衣菜さんが新しく副会長に就任することが決まりました。

会場での開催の様子



オンライン参加者を交えた集合写真

〇2021 年度におけるラムサールセンターの主な活動内容

2021 年	（参加者敬称略）
５月 28 日	ラムサール通信 206 号発刊
６月 19 日	第 31 期 RCJ 総会（オンライン）
７月５日-９日	第９回アジア湿地シンポジウム企画協力・参加（新井雄喜、岩崎、北本、佐藤琢磨、田辺、長倉、中村玲子、名執）
７月 13 日	第 103 回 NGO 活動成果報告会の発表・参加（新井雄喜、岩崎、亀山、中村玲子）
７月 27 日	2nd BoBWeT Quartely Meeting 開催 （新井雄喜、岩崎、佐藤奈津子、田辺、名執、土居、中村玲子）
８月 14 日	ラムサール通信 207 号発刊
９月 29 日	ラムサール通信 208 号発刊
10 月 17 日	第 110 回<ワイズユース>ワークショップ「ベトナムメコンデルタ地域におけるコミュニティバイオガス装置の実証研究　-ホテイアオイを資源として活用して-」 「日本のラムサール条約登録湿地の今と魅力 -People, Wetlands, Wildlife 活動を通じて-」 （岩崎、岩間、尾崎、北本、佐藤奈津子、田辺、中村玲子、林、武者）
10 月 27 日	聖学院大学政治経済学部の公開講演会共催「ポストコロナ時代の環境活動」 （岩崎、佐藤琢磨、中村玲子）
10 月 31 日	第６回コウノトリ未来・国際かいぎの企画協力（セッションⅢ「私たちの未来」コウノトリが暮らす地域の取組み）（岩崎、尾崎、北本、寺田、中村大輔）
12 月５日	第 111 回<ワイズユース>ワークショップ「KODOMO ラムサール同窓会&座談会」 （岩崎、北本、佐藤奈津子、中村玲子、林）
12 月 27 日	ラムサール通信 209 号発刊 RCJ ホームページ　リニューアルオープン

2022 年	
１月３日	愛媛県西予市宇和盆地の視察（北本、田辺）
１月８日	琵琶湖周辺の自然観察施設への訪問、挨拶（北本、田辺）
２月２日	日本国際湿地保全連合、国連大学サステイナビリティ高等研究所、地球環境パートナーシッププラザ主催「世界湿地の日」記念シンポジウムでの事例発表（新井雄喜）
２月 15 日	PWW 評価ワークショップへの参加（岩崎、北本）
２月 27 日	ラムサール通信 210 号発刊
３月 13 日	第 112 回<ワイズユース>ワークショップ「2021 年度の活動の振り返り」（新井、尾崎、岩崎、亀山、北本、佐藤奈津子、田辺）
３月 19 日	東京都港湾局主催「もっと知りたい！東京の宝 ラムサール条約湿地・葛西海浜公園」オンラインシンポジウムに、パネルディスカッションのコーディネーターとして協力（尾崎）
３月 31 日	「トヨタ環境活動助成プログラム」ミャンマーウトゥ村の報告冊子作成

●経団連自然保護協議会　第 109 回 NGO 活動成果報告会の報告●

2022 年７月 13 日（水）に、経団連自然保護基金（KNCF）主催の第 109 回 NGO 活動成果報告会が開催されました。同報告会は、KNCF が支援する NGO の自然保護プロジェクトについて、活動の進捗状況や、現場での苦労や工夫などを報告する場です。会員の山田真理さんの同時通訳の下、会長の岩崎さんから、「ベンガル湾諸国の湿地国際協力ネットワーク」と題してベンガル湾湿地パートナーシップ（BoBWeT）の取組について説明され、続いて BoBWeT パートナーである PALLISHREE（インド）、Bangladesh POUSH（バングラデシュ）の２団体から、それぞれ KNCF からの助成を得て行った事業活動の発表が行われました。オンラインでの報告でしたが、南アジアの NGO と一緒に活動を続けてきたことの一部を、現地の生の声で、日本の企業関係者に伝えることができました。参加者には上記団体の他に海外の BoBWeT パートナー６名が出席し、質疑応答が交わされました。

●再掲：「ラムサールセンターの 30 年」を、ラムサールセンターホームページ上に公開しました●

ラムサールセンターの創設者で初代会長の磯崎博司先生（岩手大学名誉教授）の「古希記念論文集」が 2022 年に刊行されました。ラムサールセンターフェローの中村玲子さんが、これまでのラムサールセンターの活動の振り返りを書いた「ラムサールセンターの 30 年」を、同書内に寄稿しており、その内容をラムサールセンターのホームページに転載できることとなりました。

ラムサールセンター創設のきっかけや活動の裏話なども記載されています。ラムサールセンターの以下の URL のページにて公開しましたので、是非ともご覧ください。

○「ラムサールセンターの 30 年」寄稿ウェブサイト URL

https://ramsar-cj.site/30th/

（右の QR コードからも閲覧することができます）

掲載ウェブサイト
QR コード

●湿地関連イベント等情報●

ラムサールセンターに届いた広報誌及び会報誌、また会員からの情報提供があったイベント等情報について掲載しています。

・ 日本湿地学会　第14回（2022）大会@釧路

期間　　2022年９月３日（土）～９月４日（日）
会場　　釧路市観光国際交流センターＡホール（北海道釧路市幸町3-3）
主催　　日本湿地学会（第14回大会実行委員会）
共催　　釧路国際ウェットランドセンター
後援　　釧路市

・ ラムサール条約締約国会議（COP14）@中国 武漢・スイスジュネーブ

期間　2022年11月５日～11月13日
会場　中華人民共和国　湖北省武漢市　および　スイス　ジュネーブ市
（対面とオンラインのハイブリッド開催）
備考　まだ事務局からの確定の情報が出ていないため、詳細の案内が出次第、ホームページやFacebook等でお知らせします。

・・・・・・・・・・・・・・・・会員報告・・・・・・・・・・・・・・・・・

●副会長就任にあたっての一言（鈴木詩衣菜さん）

この度RCJ副会長に就任いたしました、鈴木詩衣菜と申します。もとより力不足ではございますが、これまでのRCJイズムを引き継ぎ、みなさまと一緒に、より一層RCJの活動を盛り上げていけるように尽力したいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

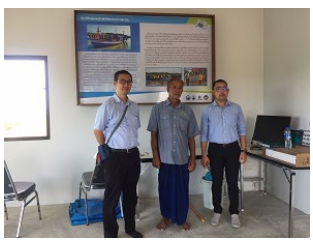
●副会長退任にあたっての一言（小山文大さん）

今回の総会を持ちまして副会長を退任することになりました小山文大です。在任中はあまり役に立つことができず残念な思いがありますが、今後も変わらずラムサールセンターの会員として活動に参加していきたいと思っています。引き続きよろしくお願い致します。

●タイのプロジェクトサイトを訪問しました（岩崎慎平さん）

RCJでは2022年度からの３年間、経団連自然保護基金の助成で「ベンガル湾沿岸諸国における責任ある漁業資源管理（クラブバンク）の普及啓発および実践」プロジェクトを実施しており、６月19日から26日までタイに訪問しました。私の他にBoBWeTパートナーのThamarat Phutthaiさん（マヒドン大学）の二人で、タイ国のラムサール条約担当部局（Department of Water Resources）およびクラブバンク支援やマングローブ保全等に取り組む海洋・沿岸資源局（Department of Marine and Coastal Resources）を訪問し、本事業活動に関する意見交換および活動支援について要請しました。また、20年以上前から一部住民の自発的な取組によって始動した個人経営型のクラブバンク（写真①）、および2022年に産官民連携に基づき大型投資で新規設立されたクラブバンク（写真②）を視察しました。視察先の取組をビデオで録画し、クラブバンク活動に関するビデオ教材を制作中です。

写真①　採捕した抱卵カニの水上畜養
（卵の色が黄橙色から灰黒色への色変化のタイミングで陸上専用タンクに移送して孵出まで保護）



写真②　クラブバンク施設での集合写真

○編集後記○

今回から少しですが、自分の言葉で伝える編集後記を執筆することになりました。よろしくお願いします。

７月頭に総会を開催し、何よりも嬉しかったのは、一年で一番多くの会員の皆さんと顔を合わせる貴重な機会となったことです。ご参加いただいた皆さん、どうもありがとうございました。

私が東京都内に引っ越して、まもなく４年が経過します。コロナ禍の少し前から、朝起きて家の周りを30分程度散歩する小さな習慣があり、もう歩いたことのない細道はないのではないか、というくらい歩き周りました。たまに土手に座って少年野球を眺めていることもあるのですが、草の匂いや、思いのほか近くを歩き回っている昆虫達には、少し時間をおかないと目がいきません。少しずつ少しずつ自然への感覚が鈍くなっている気がします。今年の夏休みは、むせ返るような野生の生気に溢れた場所で、休暇をすごせたらいいな、と考える今日この頃です。

（事務局　佐藤奈津子）

○会員の皆様からのお便りを募集しています○

ラムサール通信では湿地や環境に関する各種案内を掲載し、会員の皆様に発信をしておりますが、会員の方々や関係者の方々の湿地や環境に関する活動の情報共有のツールとしても活用したいと考えております。

湿地や環境に関する、ニュースや簡易な報告などは今後も短報として発信をしますので、ご報告やご紹介したい出来事や記事、写真などございましたら、事務局にご連絡ください。

○事務局連絡先：ramsarcj.nakamura@nifty.com